

2021年3月17日

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

笹川スポーツ財団 スペシャルサイト『スポーツ歴史の検証』
——命に感謝し、平和を愛し、人事を尽くす——
第101回 土田 和歌子 氏

(パラリンピック選手/パラリンピック夏冬 7回出場)

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する笹川スポーツ財団(所在地:東京都港区赤坂 理事長:渡邊一利)では、日本のスポーツの歴史を築かれてきた方々のお話をもとにスポーツの価値や意義を検証し、あるべきスポーツの未来について考えるためのスペシャルサイト「スポーツ歴史の検証」を掲載しています。

現在は、2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え**スポーツ界と新型コロナウイルス感染症**をテーマにインタビューを行っています。シリーズ第101回の今回は、パラリンピックに1994年以来夏冬あわせて7回出場し、計7個のメダルを獲得した土田和歌子氏にご登場いただきます。

1998年長野パラリンピック後にスキー競技から陸上に転向し、現在ではトライアスロンにも取り組まれている土田氏は、子どもを育てながら自分自身の挑戦を続けておられます。変わりゆく状況を冷静かつ正確に見極め、粘り強く前進を続けてきた土田氏の姿勢や考え方には、コロナ禍、そしてコロナ後において、スポーツ環境を整えスポーツを継続できるようにするためのヒントが詰まっております。ぜひご一読ください。

「“命”と“世界平和”あつてのスポーツの祭典」 土田 和歌子 氏
【公開日時】 2021年3月17日(水)

【URL】 https://www.ssf.or.jp/ssf_eyes/history/interview/101.html
スポーツ歴史の検証 で検索ください！


【主な内容】 選手としてストレスフリーだった大分車いすマラソンの予防対策/健康な体と生きる活力になるスポーツの存在/今も追い続ける初のパラリンピックで目にしたアスリート像/人財というレガシーを残した長野パラリンピック/大観衆の前で銀メダルを獲得したシドニー五輪での快走/不運と僅差で逃してきたマラソン金メダル/蓮の花のように“耐えて美しく咲く”アスリートに

《プロフィール》

土田 和歌子 (つちだ わかこ) 氏

1974年生まれ。17歳以来、車いすで生活。1994年リレハンメルパラリンピックへの出場以降、パラリンピック選手として活躍。1998年長野パラリンピック後はパラ陸上に転向。2020年東京パラリンピックへは、パラトライアスロンと車いすマラソンの2競技で出場を目指す。

佐野 慎輔 (さの しんすけ) 氏 /インタビューアー

1954年生まれ。産経新聞客員論説委員、笹川スポーツ財団理事/特別上席研究員。スポーツ記者を30年以上経験し、日本オリンピックアカデミー理事、野球殿堂競技者表彰委員を務める。

<スポーツ歴史の検証>概要

【企画制作】 公益財団法人笹川スポーツ財団

【後援】 スポーツ庁、東京都、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会ほか

【特別協力】 株式会社アシックス